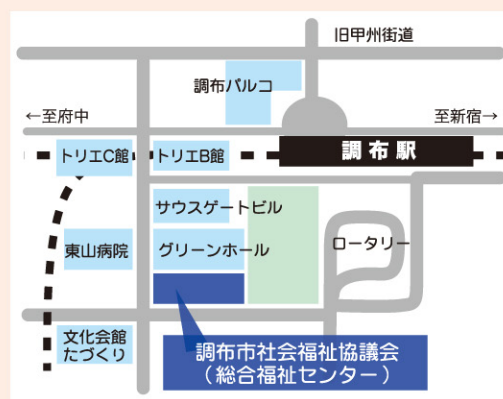


いつまでも住みつづけたいと思う

まちづくりをめざして

法人化50周年記念誌



社会福祉法人 調布市社会福祉協議会

〒182-0026 調布市小島町2-47-1
調布市総合福祉センター
電話：042-481-7693 FAX：042-481-6611
E-mail：chofu-shakyo@ccsw.or.jp



ホームページ



YouTube

発行日 令和3年9月
発行 社会福祉法人調布市社会福祉協議会
印刷 株式会社ウィード

表紙絵：中川平一氏 画

【プロフィール】1939年 東京新宿生まれ。空襲で被災後、調布に転居。東京学芸大学美術科卒業。市内小学校での教職を退職し、画家となる。調布市の矢われつつある民家や木立などの自然を愛惜し、現場制作のスタイルで55年描き続け、調布市芸術文化功労賞を受賞した。



「福祉会館風景」 令和3年6月 / 中川平一氏 画

調布社協
法人化50周年



ごあいさつ

社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 法人化50周年

目次

ごあいさつ	01
お祝いの言葉	02
調布社協 法人化50周年記念座談会	04
調布社協 50年のあゆみ	10
最近10年間における新たな取組	13
50のメッセージ	16
調布社協の事業紹介 ～活動の拠点～	24
調布社協の事業紹介 ～展開している事業～	26
数字で見る50年	28
組織図・評議員・役員・キャラクター紹介	29



法人化
50周年を
迎えて



社会福祉法人
調布市社会福祉協議会
会長 関森 正義

調布市社会福祉協議会は、昭和30年に前身である調布市社会福祉事業協会として創立し、昭和46年に社会福祉法人格を取得してから、今年で50年という記念すべき節目の年を迎えることができました。これもひとえに市民のみなさんをはじめ、関係機関・団体のみなさんの社協事業へのご理解とご協力、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

この間、社会福祉を取り巻く環境も大きく変化してきました。少子高齢化、高齢者の孤立、子どもの虐待・貧困、ひきこもり、8050問題等新たな社会現象が表面化してきています。

そのような中、調布社協の50年の歴史を振り返りますと、設立当初社協組織はまだ小さく、実施する事業も困窮世帯への支援や、高齢者の見守り、ボランティア活動の支援が中心でしたが、平成15年の調布市総合福祉センター事業の受託を契機に、現在では地域福祉の推進を柱に、高齢、障がい、子ども・若者、生活困窮者支援、ボランティア・市民活動支援等幅広い事業を実施するに至り、組織としても大きく成長してまいりました。

また、平成25年には法人として初めて独自に設立した知的障がい者の生活介護事業所「希望の家深大寺」の施設運営を開始したほか、多様化、複雑化する地域課題や、制度の狭間にある課題の解決に向けて地域の支援を行う地域福祉コーディネーターの配置も同年から順次進め、8つの福祉圏域すべてに配置することができました。常に時代の変化に対応するとともに、その時々の福祉課題に目を向け、社協に求められる役割を自覚する中で、多くの事業に取り組んできた50年といえます。

調布社協は、これからも市民のみなさんと手を携え、地域福祉を推進する組織として「いつまでも住み続けたいと思うまちづくりをめざして」のスローガンのもと全力で市民福祉の増進に向けて邁進してまいります。

お祝いの言葉



調布市長
長友 貴樹

調布市社会福祉協議会が法人化50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。法人化に先立つ協会としての活動を含め半世紀以上にわたり福祉分野において多大なるご尽力を賜っておりますことに、心から感謝申し上げますとともに、歴代の会長をはじめ、関係者の皆様の努力に深く敬意を表す次第です。

貴協議会は、地域福祉に関する先駆的な活動を通じ、地域共生社会の実現に向けた取組を積極的に推進してこられました。また、今般の新型コロナウイルス感染症により様々な困難を抱える市民に対しても寄り添った支援を行うなど、福祉のまちづくりの推進に多大なる貢献をいただいております。

市といたしましては、今後も市民の皆様が安全・安心に暮らすことができるよう住民福祉の向上に努めてまいりますので、引き続き貴協議会のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、調布市社会福祉協議会の益々のご発展を心から祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



調布市議会議長
小林 市之

調布市社会福祉協議会が地域福祉の拠点として法人化50周年の記念すべき時を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。この間、歴代の会長をはじめ、役員、関係者の皆様が心をひとつに様々な困難を乗り越えてこられました。深く敬意を表するとともに、その御尽力に感謝申し上げます。

近年、少子高齢化や核家族化など、社会構造の変化に伴う人々の生き方、働き方は多様化が進み、社会福祉に関する要望や課題の深刻化は、私たちにも様々な影響を及ぼしています。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、生活に困窮された方々への支援等をはじめ、地域の様々な声に耳を傾け、支援につなげるなど、地域福祉の推進を図る中核としての調布市社会福祉協議会の役割は、ますます重要なものとなってまいります。

今後も、皆様の御協力をお願いするとともに、調布市社会福祉協議会の一層の御発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



調布市民生児童委員
協議会
会長 小川 時雄

調布市社会福祉協議会がこの度、記念すべき法人化50周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

地域共生社会の実現に向けて配置された地域福祉コーディネーター（CSW）と地域支え合い推進員は、制度の狭間で苦しんでいる方や既存の公的な福祉サービスだけでは十分な対応ができなかった方などに、時には民生委員とともに、柔軟に、丁寧に対応され、地域福祉を育む基盤体制の取組が着々と進められていることを心強く思っております。

昨年来、新型コロナウイルス感染症の影響は、組織・財政・地域に多大なものがあり、見守りや支援などの民生委員活動が大きく制限される中で、調布社協の市民に寄り添った対応・支援は大きな役割を果たしていると感じております。

社協と民生児童委員活動は車の両輪と言われます。今後も互いに支え合いながら連携して地域福祉の推進に取り組み、より一層活躍されることを期待しております。



社会福祉法人
東京都社会福祉協議会
会長 木村 恵司

調布市社会福祉協議会法人化50周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

近年、地域のつながりが希薄化し、制度の狭間にあるニーズが増大するなど、地域福祉をめぐる課題は多様化、複雑化しています。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、地域のつながりを再構築するなど、新たな地域福祉確立の重要性が増しており、社会福祉協議会にはその中核的な役割を担うことが求められています。

このような中、調布市社協におかれましては、特に地域福祉コーディネーターを積極的、計画的に配置してこられました。また、地域福祉活動計画の推進では、小地域ごとに住民である委員が自ら会議を進行し、活動を評価する体制にするなど、様々な先駆的な取組を実施し、住民主体の地域づくりに尽力されてきました。

今後とも地域住民との協働による活動を推進し、一層の飛躍をとげられますよう祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

調布社協 法人化50周年記念座談会

様々な立場で地域福祉の推進に携わっている方々にお集まりいただき、50年の歩みを振り返るとともに、これからの福祉のまちづくりに対する思いや調布社協への期待をお話しいただきました。



自己紹介

●橋本：今日は、調布市社会福祉協議会法人化50周年記念座談会にお集まりいただきました。みなさんの自己紹介と調布社協との関わりなどを教えてください。

●愛沢：調布市視覚障害者福祉協会会長を務めています。調布社協での関わりは、出前講座が一番多いと思います。個人的には17年前から生け花を始めて、「見えないからできない」のではなく、「見えなくてもできる生け花」を目指しています。また、福祉まつりのテーマソング「愛はここから」を歌うなど、自分ができることをやっています。



愛沢 法子 氏

●水田：調布に住み始めて22年で、妻と子ども3人の5人で調布ヶ丘に暮らしています。普段はサラリーマンですが、2008年から始まった「ちょうふチャリティーウォーク」にボランティアとして参加しています。いろいろな人との出会いや、市民活動支援センターでの活動に参加することで、地域とのつながりが深くなっていると感じています。



水田 征吾 氏

●和田：染地に住んでいて、大学の教員と社会福祉法人の理事長をしています。調布社協との関わりは、市民活動支援センターの運営委員会がつくられた際、委員として参加したのが始まりです。また、調布市が設置している地域福祉推進会議で26年前から会長を務めており、地域福祉計画の策定や推進について検討しています。



和田 敏明 氏

●四家：深大寺南町に住んで47年になります。子ども4人は別のところにて、夫は4年前に亡くなったので、一人暮らしです。地域の方とはとても仲が良く、毎日楽しく過ごしています。3番目の子どもが中学生になった時に、地域の方達に大変お世話になったお返しをしないと、「神中ボランティアサークル」をつくったのがボランティア活動の始まりです。また、今年で17年目になる「野ヶ谷の郷」の代表をしています。



四家 綾子 氏

●関森：調布社協の会長になって7年目です。約60年間、農業をやっていて、ずっと調布に住んでいます。消防団、PTA会長などの活動のほか、民生児童委員を24年間務めました。民生児童委員協議会の関係で調布社協の理事や副会長になり、その後会長になりました。



関森 正義

●橋本：愛沢さんは盲導犬と生活されていますが、盲導犬と一緒に過ごそうと思っただけで、行動することで生活にどのような変化がありましたか。

●愛沢：以前住んでいた場所ではどう頑張っても白杖一本で歩けなかったので、歩行訓練士が「盲導犬はどうか」と言ってくれました。犬が苦手でしたが、「苦手なことに挑戦して習得し、それを社会に広げていくことが私なのかな」と思っていたので、まずは挑戦しようと盲導犬のマリンを貸与してもらいました。今は二頭目のもみじと暮らしています。盲導犬と外に出ると、食べたい所で食べられず、店や病院に入れなかったこともあり、かえって社会的バリアが増えました。これを何とかしようと思い、実行委員を務めていた福祉まつりで盲導犬に触れ合うブースをつくり、知ってもらえる機会になりました。

●和田：抽象的にこういうことが必要です、理解しましょうというのではなく、実際に話を聞いたり触ったりすることでその役割を理解できます。福祉まつりで、そういった体験ができるのは素晴らしいと思います。

●橋本：水田さんが市民活動にはまった、一番の魅力は何でしょうか。

●水田：会社員として家と会社を往復するだけで、あまりにも価値観などが狭い世界にいるのに気付きました。チャリティーウォーク実行委員会に初めて行った時、普段から調布で活動している方々と出会い、一つのイベントを成し遂げた体験が刺激的でした。それまではボランティアに関心がなく、「やれる人がやるもんだ」という感覚でしたが、いろいろな人とつながり、出勤で家から駅まで行く時に必ず誰かに会ってあいさつをする生活に変わりました。家族がいて、仕事があって、もうひとつの居場所が重要だと言われます。私にとっては市民活動や地域活動が居場所で、心身ともにバランスが



橋本 ゆかり

<出席者>

- 愛沢 法子 氏
(調布市視覚障害者福祉協会会長)
- 水田 征吾 氏
(ちょうふチャリティーウォーク実行委員長)
- 四家 綾子 氏
(野ヶ谷の郷運営委員会代表)
- 和田 敏明 氏
(ルーテル学院大学名誉教授、調布市社会福祉協議会理事)
- 関森 正義
(調布市社会福祉協議会会長)

<司会>

- 橋本 ゆかり
(調布市社会福祉協議会事務局長)

調布社協 法人化50周年記念座談会

とれていると思うので、一人でも多くの人に体験してもらい、引き込めるように意識しています。

●**四家**：男性のボランティアが少ない中で、また若い方がやってくれることはすごく頼もしいですね。野ヶ谷の郷は40人近くボランティアがいますが、若い人が3、4人で、30代後半と40代の方。それで平均年齢をぐっと下げています。やればとても楽しいことなので、ぜひ続けて大勢の方を巻き込んでいただきたいです。

調布社協50年の変化

●**橋本**：調布社協は当初、高齢者やひとり親家庭への支援、一人暮らしの高齢者や母子家庭・父子家庭の調査などを行っていました。今では地域福祉、ボランティア・市民活動支援、高齢者・障がい者支援など、幅広い事業を行うようになり、大きく変化しています。どう感じていますか。

●**愛沢**：30年ぐらい前は、障がい者がボランティアをすることが妙だ、される側なのと言われることがありましたが、少しずつ障がい者が社会に出て、自分ができることをやるように変わってきたと思いますし、その仲立ちをしてくれたのが調布社協でした。

あえて申しあげると、調布社協の事業は多いと思いますが、福祉まつりの事務局を若手に預けたのは大きかったと感じています。実行委員会での気づきが、自分の部署に戻った時に生かされているのではないのでしょうか。

また、障害者地域活動支援センター「ドルチェ」に市外の方が参加されることがありますが、「調布社協ってすごいね、みんなパワーがあって良い職員がいっぱいいるよね」と言ってくれています。他の社協と比較はできませんが、外から来た方たちの評価を大事にしたいです。

●**橋本**：和田さんは地域福祉を研究されていますが、国や福祉の施策、法律や制度などは時代とともに変わっています。その中で調布社協が果たしてきた役割をどう感じていますか。

●**和田**：2000年に社会福祉事業法が社会福祉法に変わった際、高齢・障がい・児童など分野別の福祉を、地域福祉という考えで共通して展開するというのを法律で決め、社協が地域福祉推進を図る団体だと位置づけられました。行政の施策も地域福祉を具体化するようになり、調布社協がそれを受けていきました。以前は「何をしているかわからない」という声も行政から聞いていましたが、今は大事なパートナーになったことが、事業が増えた要因だと思います。

また、随分前の社協は狭い意味での福祉に限られていました。市民から見れば関係ないと思われていたのが、人とのつながりの問題とか、一人暮らしがどんどん増えていくなかで社会全体でわかってきて、福祉は他人ごとという傾向から、自分ももしかしたらそうなるんじゃないかと考えられるようになってきました。そこにちょうど社協の地域福祉推進の役割がはっきりしたことで、活動が広がって大きくなったと思います。

●**関森**：地域福祉コーディネーターと、子ども・若者総合支援事業「ここあ」。この二つを実施してから変わったと思います。それまではどちらかというと、行政から頼まれたことを行ってきたという意識がありましたが、地域福祉コーディネーターが地域に入っていく、より一層地域とつながりました。加えて、「ここあ」で中学生と関わるようになったことで、調布社協のイメージが福祉から一歩出たような印象を受けています。

●**四家**：ひだまりサロンを立ち上げたときから関わっていますが、100か所近くあるのはすごいです。最初は高齢者のサロンが多かったですが、今は子育てや介護の方の集まりなど、いろいろな形のサロンができていて、調布社協は本当に市民のものだと感じています。

調布社協との関わりで印象的だったこと

●**橋本**：調布社協と関わった年数はそれぞれですが、一番の思い出は何でしょうか。

●**四家**：最初、福祉まつりは団体の資金稼ぎで出ていましたが、評議員になってからは調布社協のブースの売り手をして、両方楽しめたと思っています。

●**愛沢**：ボランティアまつりの実行委員長を務めたことです。また、今やっているサマーボランティアは、昔は高校生ボランティアスクールと呼んでいて、1年かけて手話をやったり、点字をやったり、車椅子を体験したりしていました。そこが私の原点かなと思っています。障がいをもっている人が支援されるのではなく、ボランティア活動ができることが嬉しかったです。

●**橋本**：支える側・支えられる側ではない、地域共生社会の実現を、まさに愛沢さんが実践していると思います。

●**水田**：東日本大震災が発生した時に味の素スタジアムが避難所になり、チャリティーウォーク実行委員会としても、それぞれのスキルを生かして協力しました。その際、大勢の人が「私に何かできないか」と集まったことで、「世の中には何かしたい人がたくさんいる」という確信になりました。何とかしたいという人がいて、それを具現化する組織が調布社協で、より良いまちになるようにつながっていくイメージがあります。

●**和田**：東日本大震災の時に一番感心したのは、職員だけではなく市民ボランティアがその人たちが持っているノウハウを活用して参加していたことです。それから、小地域交流事業で中学生が司会をやっていたこと。子どもたちが参加して運営をしていると、地域の人たちが自然と協力して一緒にやろうという感じになります。

●**愛沢**：敬老のつどいを小地域交流事業に変えていった時、なかなか議論が進まなくて、子どもから高齢者まで一緒に何かをすることが難しい時期がありましたね。今はスムーズに世代間交流ができていてすごいです。

●**関森**：子どもが来ると、高齢者は生き生きします。世代間交流というのは素晴らしい事業だなと感じています。また、実行委員会組織にして、あくまでその地域に任せる、職員はあくまでサポートという形態も良いと思います。



調布社協 法人化50周年記念座談会

こんなまちになってほしい

●橋本：今後、「こんなまちになってほしい」という思いを教えてください。

●水田：思いがある人が新しいことを始めて、みんなで進化させていくまち。チャリティーウォークは、ベビーカーに乗っている子どもから80代まで、多世代の人たちが同じことをするイベントです。しかも、その集めた募金が市民活動の原資になるという仕組みが素晴らしいです。調布に住んでいる人たちが、ただ住むのではなく、まちと接点を持ちながらあらゆる世代を感じられるようなものが根付いていくと良いです。

また、世の中はすごいスピードで変わっているのだから、社会課題も変化します。そこに目を向けて、現状ではなく、少し先を見てそれに備えて動くことが大事だと思います。

●四家：今も大好きなまちです。総合福祉センターが引っ越しするのを元気で見届けたいと思います。100歳まで生きたいので、ゆっくりまちを見て、その都度楽しみたいです。

●和田：コロナ禍によって、潜在化していた様々な課題が顕在化しています。明らかになった課題が調布にもあることをしっかりと受け止めてどう対応していくかを、今まで我々が考えてきたことよりも広く深く考えていく必要があります。

●愛沢：視覚障がい者は、白杖や盲導犬を携えることで、またはガイドヘルパーがいて一歩を踏み出せます。しかし、ガイドヘルパーがいても安心して歩けない道があるのも事実です。調布は緑もあるし、いろいろな世代の人も住んでいるし、良いまちだと思っています。しかし、まずは私たちが安心して歩ける道の整備から、まちづくりをしてほしいです。

●関森：コロナ禍でみなさん外出を自粛していて、家から一歩も出ない方がいるので、今後孤立がもっと増えると思います。地域福祉コーディネーターやひだまりサロン、小地域交流事業などを通して、孤立しがちな方々をつなげられるまちにしていきたいです。

●和田：今、コロナでバラバラになっているものをつなげる取組を広げていけると良いですね。みんなが知恵を出すことで、「こんなやり方もあるんじゃないか」と出てくると思います。「コロナに負けない！調布の福祉！」です。

これからの調布社協への期待

●橋本：私たちが取り巻く環境もコロナで随分変わっていますが、これからの調布社協への期待をお話してください。

●愛沢：全国各地でいろいろな方々とお話する中で、調布は平均より福祉制度が充実していると感じていますが、下がっているところもありますし、突出して良いところもあります。良いところはもっと伸びてほしいですが、行政と市民をつないで、下がっている部分を底上げしてもらおう働きを期待します。調布に住

んでよかったねということ、調布社協はいいよねということに着地してほしいなと思います。

●水田：調布社協の職員と接する時にいつも感じるのが、安心できる人たち、ほっとする空間という気持ちです。その理由の一つが、自分たちが表に出るよりも市民を前面にして支えるというスタンス。そういう形でいてくれるからこそ、安心して活動ができていますので、変えないでほしいです。

また、どんな活動も人です。まちづくりは人の心を動かしてまちに反映させていくことだと思うので、人がアクションを起こしてまちを楽しく活性化していく、そのサポートをしてもらいたいです。

●和田：一つは、調布市が福祉圏域を整備し、一番小さなエリアを小学校区、次に8つの福祉圏域、そして調布市全域という形になりました。この8つの福祉圏域に地域福祉コーディネーターが配置されていますが、これから地域づくりをどうしていくか、いろいろな人たちが協力し合い、相談し合うための仕組みをどうするかということ、本格的に考える時期に入ったと思います。

もう一つは、社会が変化するといろいろなことが起こってきます。調布社協で注目しているのは、例えばひきこもりや8050問題と言われる家族が複合的な課題を抱え、うまく対応できなかったところに踏み込み、取り組んでいることです。今後も新しい課題が出てくるとは思いますが、地域福祉コーディネーターを中心に取り組んでほしいです。

また、障がい者は受け手ではなく、地域福祉の担い手でもあるという力強い言葉をいただいたので、まさにそういう調布にしていきたいですね。

●四家：これからは、体力的にあまりお手伝いができないかもしれません。担い手というより受け手になると思いますが、そういうことをつなげる調布社協であってほしいです。今年、野ヶ谷の郷でフードパントリーを2回やりましたが、初めてそのようなことがあると気づきました。私たちはまだまだいくらでも学べます。どんどん発信して、つなぐ役目をしてほしいです。

●関森：みなさん方から調布社協に対する気持ちを伺いました。いろいろな方のご意見を聞くこと、これが大事なことだと思います。今日は座談会という形でしたが、ご意見を聞く場をこれからもつくっていければ、職員だけでは考えつかないことにも気付けるかもしれません。

●橋本：「いつまでも住み続けたいと思うまちづくりをめざして」が調布社協の基本理念です。地域のみなさんの思いや期待に応え、信頼され、一緒に活動していくために、これからも進んでいければと思います。これにて法人化50周年記念座談会を終了します。ありがとうございました。



座談会の様子は、調布社協YouTubeチャンネルで公開します



調布社協 50年のあゆみ

- 1955** ● 調布市社会福祉事業協会創立
- 1971** ● 社会福祉法人として認可
- 1972** ● 会報「福祉の窓」第1号発行
(S47)
- 交通災害児家庭実態調査
- 1973** ● ボランティアによる無料散髪開始
- 生活保護世帯等児童に通学用品・卒業祝品支給
- 中卒就職者に祝金支給開始
- 養護施設職員に期末援助開始
- 1974** ● 古切手、おむつの収集開始
- 老人実態調査
- ボランティア講座開始
- 1975** ● 社協事務所を市民センターに移転
- 福祉団体指導・育成を市から移管
- 1976** ● 母子家庭実態調査
(S51)
- ねたきり高齢者に出張理容サービス開始
- 1977** ● 福祉タクシーに関する調査
- ボランティア活動推進モデル地区の指定
- 1978** ● 調布ボランティアコーナー設置
- 調査広報部会発足
- 全社協から優良社協として表彰
- チャリティ市民ゴルフ大会開始
- 第1回調布市福祉まつり開催
- 1979** ● 市民の福祉に関する意識調査
- 1980** ● 父子家庭実態調査
- 第1回ボランティアのつどい開催
- 1981** ● 社協活動に対する意識調査
(S56)
- 寝たきり高齢者介護人招待事業開始
- 障害児実態調査
- 1982** ● 老人ホーム訪問開始
- 1983** ● 社協事務局を総合福祉センターに移転
- 親の子に対する養育態度調査
- 1984** ● 調布市から調布市希望の家の運営を受託
- 調布市から老人給食等ボランティア関連7事業が移管



- 高校生ボランティアスクール開始
- 児童・生徒のボランティア活動普及事業
- 1985** ● 高齢者ボランティア意識調査
- 1986** ● ボランティア組織活動調査
(S61)
- 清涼飲料水自販機を総合福祉センターに設置
- 1987** ● ボランティアに関する意識調査
- 小学生の親と子のボランティア入門講座開始
- 1988** ● ボランティア出前講座開始
- 入間町に調布市第二希望の家（現：調布市希望の家分場）開設
- 1989** ● 60歳以上夫婦のみ世帯実態調査
(H01)

- 1990** ● 第1回調布市福祉大会開催
- 精神発達遅滞児実態調査



- 1991** ● 菊野台ボランティアコーナー開設
(H03)
- 調布ボランティアコーナーから調布ボランティアセンターへ名称変更
- 在宅ねたきり高齢者実態調査
- 1992** ● 東社協からふれあいのまちづくり事業の指定
- おはようふれあい訪問
- ふれあい福祉ダイヤル（電話相談事業）
- あったかお便り
- 痴呆のお年寄りを地域で支えていくための集い
- 施設地域福祉活動啓発事業
- ふれあいのまちづくり事業推進委員会設置
- 福祉作業所等連絡会発足
- 第1回菊野台ボランティアまつり開催
- 1993** ● 会報「福祉の窓」第100号記念発行
- 訪問デイサービス事業（ふれあいのまちづくり事業新規分）
- サマーボランティア事業開始
- 調布市から視覚障害者ガイドヘルパー派遣事業を受託
- 調布市から老人クラブ育成事業、共同募金事業が移管
- 1994** ● 第1次調布市地域福祉活動計画（H7～H11年度）策定
- ふれあいボランティア基金設置
- ほのぼの在宅支援基金設置
- 富士見ボランティアコーナー開設
- 1995** ● 富士見ふれあいサロン設置
- 第1回富士見ふれあいのつどい開催
- ふれあい福祉センター相談事業運営委員会設置
- 手話通訳者登録試験導入
- 1996** ● 染地ボランティアコーナー開設
(H08)
- 事務局組織改正2課制に（総務課、地域福祉課）
- 調布市からふれあい給食（パイロット自治体事業）を受託
- 1997** ● 社協のあり方検討会中間報告作成
- 1998** ● 2級ホームヘルパー養成事業の受託
- 災害時ボランティアコーディネーター養成事業開始
- 染地ふれあいサロン設置
- 1999** ● 第2次調布市地域福祉活動計画（H12～H16年度）策定
- 緑ヶ丘ボランティアコーナー開設
- 緑ヶ丘ボランティアコーナー協力委員会発足
- 精神保健ボランティア入門講座開始
- 基幹社協として、地域福祉権利擁護事業を開始
- 2000** ● 敬老のつどいを小地域交流事業とし、地域交流事業を実施



- 2001** ● 調布市から総合福祉センター事業の部分的運営受託
(H13)
- 障害者（児）緊急一時保護事業
- 障害児音楽療法事業
- 高齢者友愛訪問事業
- 高齢者マッサージ事業
- 緑ヶ丘小学校でふれあい給食事業開始
- 調布市から利用者保護モデル事業を受託
- 社会人のためのボランティア講座の実施
- 高齢者の社会参加のしくみづくりへの協力
- ホームページ開設
- ミニデイサービスモデル事業開始
- 2002** ● 会報名を「福祉の窓」から「ふくしの窓」に変更
- 調布市から障害者地域自立生活支援事業を受託
- 調布ボランティアセンター基本構想確立
- 名称を「調布ボランティアセンター」から「ちょうふ市民・ボランティア活動センター」へ変更
- 調布市、三鷹市、府中市、日野市、多摩市、稲城市及び狛江市から利用者支援事業を受託
- 会員増強運動の一環として駅頭キャンペーン、街頭キャンペーンを開始
- 小地域見守り活動を2地域で実施
- 福祉バス運行事業の名称をハンディキャップ運行事業へ変更（利用者負担の開始）
- 2003** ● 調布市から総合福祉センター事業の全面運営受託
- 事務局が1階2階のフロアになり職員数が大幅に増加
- 組織の再編を行い、地域福祉推進課に係（在宅支援係）を増設
- 介護保険事業（通所介護「いきいき」「あや」）を受託
- 支援費制度による居宅介護事業所の開設
- ミニデイサービスの名称が「ミニデイサービス ひだまり」へ変更
- ※各ミニデイのスタッフの研修会・交流会の実施
- 地域福祉権利擁護事業が広域対応から単一市対応へ
- 石原小学校でふれあい給食を開始
- 募金箱「しあわせ・福祉・はこぶ・箱」を市内小売店等に設置開始



- 2004** ● 第3次調布市地域福祉活動計画（H17～H21年度）策定
- 調布市から市民活動支援センターの運営を受託
- 市民活動支援センター運営委員会を設置
- 「野ヶ谷の郷」が市内5番目のランチとして開設
- ※空き店舗を活用
- 2005** ● 第3次調布市地域福祉活動計画推進委員会設置
- （活動計画の進行管理）
- 社協経営改善計画策定
- ミニデイサービスひだまり事業とふれあいサロン事業を「ひだまりサロン事業」に統合（助成制度の導入）
- ふれあいサロンで実施していた「ふれあい福祉相談」は継続

- 調布市希望の家内化準備開始
- 第三者委員の設置
- ふくしの窓に広告スペースを設置
- ※市内企業、商店等に掲載協力の呼びかけ
- 会員増強運動の一環として、スーパー店頭でのキャンペーンを実施



- 2006** ● 大規模災害に対する仕組づくりに着手
(H18)
- 中途失聴・難聴者のための手話講習会開始
- 調布市から地域福祉活動支援事業を受託
- 調布市希望の家が障害者自立支援法に基づいた知的障害者通所授産施設として運営を開始
- 社協発展強化計画の策定
- 障がい者の指定相談支援事業所の開設
- 移動介護従業者養成研修事業を補助事業にて実施
- 調布市から障害程度区分認定調査を受託
- 調布市から介護予防事業の一つとして、はつらつ転倒予防事業を受託
- ハンディキャップ運行事業の運営を、NPO 調布ハンディキャップへの補助事業へと移行
- 障害者地域自立生活支援事業を障害者相談支援事業として、調布市から受託
- 調布社協キャラクター「ちょビット」誕生
- 2007** ● 調布市から調布市こころの健康支援センターの運営を受託
- 調布市から障害者地域活動支援センター「ドルチェ」の運営を受託
- 高齢者マッサージ事業が、調布市受託事業から補助事業に移行
- 自主事業「ねたきり高齢者出張理容サービス」に美容を加え、調布市補助事業「訪問理容サービス」として開始
- 通所介護「いきいき」、「あや」が一つになり、通所介護「アイビー」に名称変更
- 2008** ● 調布市から生活安定応援事業を受託（H20年8月～23年3月の時限事業）
- 友愛訪問事業が受託事業から補助事業へ移行
- ふれあい給食石原小学校で金曜日開始
- ふれあい福祉相談の拠点が2か所増加（緑ヶ丘地域福祉センター、菊野台地域福祉センター）
- 企画提案方式により市民活動支援センターの運営を引き続き、向こう5年間受託
- 調布市福祉まつりキャラクター「サニーくん」誕生
- 2009** ● 第4次調布市地域福祉活動計画（H22～H26年度）策定
- 市民活動支援センター西部コーナー開設
- 「障害」を「障がい」と原則記述

調布社協 50年のあゆみ

- 2010
 - 会報「ふくしの窓」第200号発行
 - 高次脳機能障害者支援促進事業の開始
 - 調布市希望の家が障害者自立支援法新体系の「生活介護」施設へ移行
 - 第4次調布市地域福祉活動計画推進委員会設置
 - 市民活動支援センター染地コーナーを週3日から週5日開所に拡大
 - 作業体験デイ「若草」開始
- 2011 (H23)
 - 精神障害者就労支援室「ライズ」創設
 - 児童デイサービス「びっこる」開始
 - 調布社協が実施主体となり、東日本大震災義援金の募集を実施
 - 調布市被災者支援ボランティアセンターを設置 ①
 - 被災地復興支援のため、ボランティアバスを運行開始



- 2012
 - 共同募金調布地区配分推薦委員会の設置
 - 調布社協40周年記念
 - ふれあい給食北ノ台小学校開設
 - 同行援護事業所の指定
 - 障害者総合支援法制定
 - 第4次調布市地域福祉活動計画「見直し計画」(H24～H29年度)策定
 - 京王線調布駅付近連続立体交差(地下化)完成
 - ふくしの窓各戸別(全戸)配布開始
 - 事務局組織改正5課制に(総務課、地域福祉推進課、ボランティア・市民活動推進課、希望の家、こころの健康支援課)
 - 「びっこる」が放課後等デイサービスに指定
 - わかさショップ開設
 - 希望の家深大寺建設工事着工
- 2013
 - 地域福祉コーディネーター2人を、調布社協として初めて配置 ②
 - 相談支援事業所調布市こころの健康支援センター開設
 - 希望の家深大寺開設 ③
- 2014
 - 市民活動支援センター10周年
 - 「ちょビット」立体化(着ぐるみ完成)



- 2015
 - あんしん未来支援事業開始 ④
 - 調布市希望の家(本場)大規模改修工事
 - 重度訪問介護事業、高齢者マッサージ事業廃止
 - 地域福祉コーディネーターを2人増配置。合計4人に

- 2016 (H28)
 - 生活困窮者自立相談支援事業(調布ライフサポート)を調布市から受託し開設 ⑤
 - 調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」を調布市から受託し開設(10月) ⑥
 - 調布市福祉人材育成センター開設 ⑦
 - 調布市こころの健康支援センター生活訓練事業開始
 - 総合福祉センター空調工事
 - 社会福祉法人会計新基準に移行
 - 社会福祉法改正(法人制度改革)
 - ひだまりサロンが100か所に
 - 調布市地域公益活動ネットワークづくり連絡会発足
 - 第5次調布市地域福祉活動計画策定委員会の設置
- 2017
 - 社会福祉法人改革による、新評議員、新役員体制となる。評議員の任期は4年間に
 - 介護予防・日常生活支援総合事業の開始
 - 生活支援体制整備事業を調布市から受託し、地域支え合い推進員を2人配置 ⑧
 - 調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会発足(調布市地域公益活動ネットワークづくり連絡会から) ⑨
 - フードドライブ事業開始。調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会が参加協力
 - 心配ごと相談事業廃止
 - ふくしの窓全8面カラー印刷化
 - 地域福祉コーディネーターを2人増配置。合計6人に
 - 第5次調布市地域福祉活動計画(H30～H35年度)策定 ⑩
- 2018 (H30)
 - 「平成」から「令和」に
 - ラグビーワールドカップ日本大会開催
 - 調布市が大会会場の1つに
 - 台風19号による調布市内多摩川沿いの浸水被害
 - 調布社協として初めて災害ボランティアセンターを立ち上げ、支援活動を実施 ⑪
 - 地域福祉コーディネーター2人増配置により、全ての福祉圏域(8圏域)へのコーディネーター配置が完了。合計8人に
 - 生活困窮者自立相談支援事業の家計改善支援事業を調布市から受託
- 2019 (R01)
 - 新型コロナウイルスの世界的流行。緊急事態宣言の発令。東京オリンピック・パラリンピックの1年延期
 - 「コロナに負けない!調布の福祉!」をスローガンに活動を展開 ⑫
 - 緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付、住居確保給付金の相談、申請手続きに法人職員総動員で対応
 - ウェブ会議導入。テレワークの実施
 - YouTubeチャンネル開設
 - 会費の受付にオンライン決済フォームを導入
 - クレジットカード払いが可能に
 - 調布市福祉まつりは第1回開催以来、初めての中止。その他、社協各事業も大幅自粛
 - 地域支え合い推進員を2人増配置。合計4人に
 - 会費の愛称が「ちょビット協力金」に
 - 東京オリンピック・パラリンピックの開催
 - ホームページ全面リニューアル
 - 調布社協法人化50周年
- 2020
 - 新型コロナウイルスの世界的流行。緊急事態宣言の発令。東京オリンピック・パラリンピックの1年延期
 - 「コロナに負けない!調布の福祉!」をスローガンに活動を展開 ⑫
 - 緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付、住居確保給付金の相談、申請手続きに法人職員総動員で対応
 - ウェブ会議導入。テレワークの実施
 - YouTubeチャンネル開設
 - 会費の受付にオンライン決済フォームを導入
 - クレジットカード払いが可能に
 - 調布市福祉まつりは第1回開催以来、初めての中止。その他、社協各事業も大幅自粛
 - 地域支え合い推進員を2人増配置。合計4人に
 - 会費の愛称が「ちょビット協力金」に
 - 東京オリンピック・パラリンピックの開催
 - ホームページ全面リニューアル
 - 調布社協法人化50周年
- 2021
 - 新型コロナウイルスの世界的流行。緊急事態宣言の発令。東京オリンピック・パラリンピックの1年延期
 - 「コロナに負けない!調布の福祉!」をスローガンに活動を展開 ⑫
 - 緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付、住居確保給付金の相談、申請手続きに法人職員総動員で対応
 - ウェブ会議導入。テレワークの実施
 - YouTubeチャンネル開設
 - 会費の受付にオンライン決済フォームを導入
 - クレジットカード払いが可能に
 - 調布市福祉まつりは第1回開催以来、初めての中止。その他、社協各事業も大幅自粛
 - 地域支え合い推進員を2人増配置。合計4人に
 - 会費の愛称が「ちょビット協力金」に
 - 東京オリンピック・パラリンピックの開催
 - ホームページ全面リニューアル
 - 調布社協法人化50周年

最近10年間における新たな取組

① 東日本大震災被災者支援



被災地支援災害ボランティア活動中(がれきの撤去作業)

味の素スタジアム内に「被災者支援ボランティアセンター」を設置し、東京都や調布市などと連携し、多くのボランティアのみなさんご協力のもとその運営にあたりました。
また、被災地への支援として、官民の連携のもとボランティアバスを運行し、岩手県沿岸部の被災地へ40回、延べ950人のボランティアの方々の参加がありました。

地域福祉コーディネーター(CSW) ②

調布市内の小中学校区を基準にした福祉圏域8か所に1人ずつ、計8人を配置しました。生活上の悩みや困りごとを抱える方に対して、様々な機関・団体と連携しながら課題の解決を図るとともに、居場所づくりなど住民主体の活動の推進や、地域でのネットワーク構築といった取組を行っています。



CSWが立ち上げに関わった子ども食堂

③ 希望の家深大寺

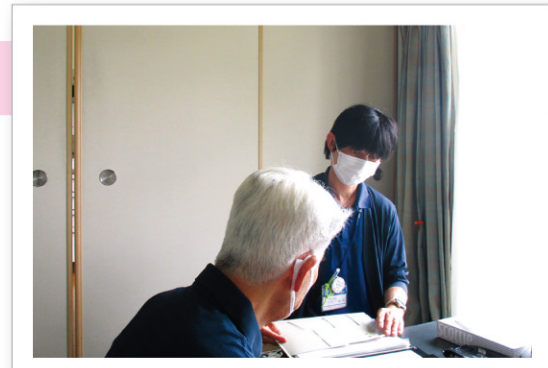
調布市から受託している「調布市希望の家」、「調布市希望の家分場」に続き、知的障がいのある方の生活介護施設として、社協独自に設置・運営している「希望の家深大寺」が、深大寺北町に開所したのは平成25年9月のことでした。
以来、地域のみなさんご理解と温かい見守りの中、より良いサービスの提供を目指して運営しています。



つどいは、地域の方々のご協力を得て開催しています

あんしん未来支援事業 ④

市の補助事業として平成26年11月1日に開始となりました。急な入院時などに頼れる親族がない場合でも、安心して地域で暮らしていけるよう、十分な判断能力があるうちに支援方法を決めて契約し、必要時に金銭の管理や手続き、保証人機能などの支援を行う事業です。



月1回の見守り・生活状況の確認

最近10年間における新たな取組



5 生活困窮者自立相談支援事業 (調布ライフサポート)

「生活困窮者自立支援法」に基づき、多様で複合的な課題に関する相談に応じ、必要な情報提供及び助言を行うため、平成27年から相談窓口「調布ライフサポート」を設置しています。生活・家計相談、民間企業との連携による就労相談等、生活上の困りごとを抱える方とともに考え、寄り添う支援を行っています。

一人ひとりに寄り添って支援しています



9 調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会

市内の社会福祉法人が専門性を発揮し、連携して地域の福祉課題及び生活課題の解決に取り組むことを目的に、平成29年7月に設立されました。

調布社協は事務局を担い、家庭や事業所で余っている食品を持ち寄り、必要とする施設や団体にお渡しするフードドライブなどの活動に取り組んでいます。

集めた食品を市民活動団体にお届け

調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」6

平成27年11月よりスタートし、現在6年目を迎えるとしています。家庭の事情等により、進学や就職をあきらめてしまうことがないよう、子ども・若者に対して学習支援や居場所の提供を行うとともに、進学や自立に向けた相談支援を行っています。



学習支援では毎日打合せを行っています

第5次調布市地域福祉活動計画 10

本計画は、住民や福祉事業者などが協働してまとめた民間の行動・活動計画です。「ここがいい ここがいい わがまち調布 これからも」をスローガンに、平成30(2018)年度から令和5(2023)年度までの6か年を推進期間としており、つながりづくり、支え合いの輪の構築、生活支援の仕組みづくり、社会参加の促進など、地域で取り組むことを具体的にまとめています。



話し合いを経て新たに生まれた取組「防災×まちあるき+福祉」



7 調布市福祉人材育成センター

平成27年に、障がい当事者の参画のもと、地域の福祉人材を発掘、育成することを目的に誕生しました。①福祉に関心を持つ人を増やし(普及啓発)、②福祉の入門的な資格取得を応援し(資格研修)、③福祉に関する専門性を高め(専門研修)、④実践を通じて福祉職同士がつながる機会づくり(ネットワーク形成)に取り組んでいます。

実践を通じて学びあう「ちょうふ地域福祉フォーラム」



11 令和元年10月台風19号 災害ボランティアセンター設置

被災エリアに近い公園の一角にテントを立て、ボランティアの方々の受け入れをはじめると、活動を見ていた多摩川住宅ト号棟管理組合のご厚意で、1週間の開設期間中、集会所を提供いただきました。延べ380人のボランティアの方々のご協力で、浸水被害のあったお宅の濡れた家財道具などの運び出しなどを行いました。その後、写真洗浄の活動も始まりました。

集まっていたボランティアの方々

8 地域支え合い推進員 (生活支援コーディネーター)

高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的に活動しています。高齢者を含む多世代が、住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けられるよう、地域住民の主体的な活動を応援したり、住民や関係機関をつなぐ役割を担っています。



介護予防を通じた仲間づくり

コロナ禍の対応 12

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、私たちの生活様式をも一変させました。調布社協においても、地域のつながりづくりのための活動が滞る一方で、急増する生活困窮の相談に総力を上げて取り組みました。また、このような状況だからこそ「コロナに負けない!調布の福祉!」をスローガンに、困っている方、孤立した方に手が差し延べられるたすけあいの仕組みも生まれました。



ポスターを作成し、「コロナに負けない!」をPR

50のメッセージ

調布社協法人化 50周年を記念して

50人のみなさんよりメッセージをいただきました！（五十音順・敬称略）

01



希望の家で作業を中心としたさまざまな活動に参加し楽しく過ごしています。いつの日かコロナで中止となっている地域のつどいや運動会をしてもらいたいと思います。そしていつか宿泊旅行も行きたいと思います。

希望の家利用者自治会
会長 松永 美恵子

02



一歩足を踏み入ると、そこには温かい雰囲気と活気がみなぎっている。市民目線に立ちそこに救いを求める言葉がなくとも困っている人々に寄り添う。そんな貴会が支える調布の未来は輝かしいものであると信じている。

特定非営利活動法人
きもの笑福
代表 鎌田 弘美

03



「困ったときはおたがいさま」の精神で、社協と共に、募金運動を実施してきました。今後も、地域の一人ひとりに寄り添いながら、共に安心して暮らせるまちづくりの推進役として、益々のご活躍を祈念しております。

共同募金調布地区協力会
会長 林 貞夫

04



女性が主体となって奉仕活動を行う当団体が設立された1994年より、貴会にご協力いただき、毎年一緒に地域福祉活動をさせていただいております。これからも力を合わせて、共に調布の福祉に貢献できましたら幸いです。

国際ソロプチミスト
東京ー調布
会長 美野 ひろ子

05



福祉まつり参加を通じて調布の町の移り変わりを身近に感じて参りました。駅前が整備され街は美しく変化しましたが、社協の必要性は増しているように感じます。福祉作業所やこころの健康支援センターのPRを市民にお届けください。

国際ソロプチミスト
東京ー調布ローレル
会長 斯波 信子

06



調布市の高齢化は全国の動向に比して緩やかですが、いよいよ本格化を迎えるなか、シニアクラブなど高齢者の地域活動の果たす役割が大きくなっています。今後とも協働して活動の輪を拡げ、取り組んで参りましょう。

さるすべりシニア調布
(調布市老人クラブ連合会)
会長 兼子 久

07



出掛ける時は同行支援していただき、LaLaの活動もご支援いただいています。社協に行くとおちこちから「小林さん！」と声をかけてくれる皆さんがいます。人と人のつながりを育んでくださる存在だと感じています。

視覚障がい者のための
メンタルスキル講座 LaLa
代表 小林 陽子

09



「ふくしの窓」を見て、地域に呼びかけて設立し13年経過。活動の行き詰まりの時、協議会からのスタッフの参加で懇談したり学習会の実施、新会員の紹介。他地域交流会開催に参加して元気になりました。継続を期待。

そよ風サロン
代表 梶原 政子

08



令和元年台風19号が通りすぎたキレイな青空と泥だらけの家と思ひ出。そんな時に災害ボランティアのみなさんが泥だらけになり何日間も助けてくださったことを私たちは忘れません。みなさんは私たちのHEROです。

セボンデルソール管理組合
理事長 久保田 紀之

10



身近なアドバイスやサポートがあれば、多くの方が活躍できる。限られた人の社協でなく、これから活躍する人が楽しく活動できるよう、積極的な提案をどんどんして欲しい。次の10年はさらに開かれた社協であってほしい。

多摩住ロ号棟ひだまり
代表 井垣 弘子

※01~44は団体の方、45~50は個人の方よりいただきました。

50のメッセージ



地域包括支援センターは社会福祉協議会と密接な関わりの中で地域の高齢者支援を進めてまいりました。これまで以上に協力関係を継続し、調布市の福祉に貢献していく所存でございます。益々のご発展を祈念申し上げます。

地域包括支援センターはなみずきセンター長 赤羽 陽子



2019年に21回目を迎えた「チャリティーカレー」を通じて、微力ながら貴協議会の活動に参加させて頂いています。コロナ禍で今は中断していますが、収束後には必ず再開し、皆様方の活動を今後とも応援していきたいと思っています。

調布クレストンホテル 営業統括支配人 坪井 秀克



市民活動支援センター運営委員を始め、ふれあいのつどい等お祭りの実行委員と一緒にやらせていただいています。今後も各地域で、子どもから高齢者までが、顔の見える関係でつながり、助け合える社会づくりを期待します。

特定非営利活動法人 ちょうふこどもネット 理事長 平澤 和哉



社会生活や地域の環境が目まぐるしく変化する中、協議会の活動も多様なことと思います。調布市社会福祉協議会の更なる充実した歩みを継続されますことを心より祈念いたします。

調布・狛江地区更生保護女性会 会長 愛甲 悦子



30年以上も前の市報に載った「調理ボランティア募集」の記事が、私と市、社協との出会いの始まり。デイサービスの皆さんに家庭の味をお届けしたいと、100人の仲間と楽しく活動。昔のように、皆さんと一緒に食事ができたら、最高です。

調布市いきいきクラブ 調理運営協議会 副会長 澤田 康子



医師会は市民の健康を守るために活動する団体ですので、社会福祉協議会との連携を大変重要視しております。貴会の理事・産業医・嘱託医を担わせていただくと同時に、様々な市民活動に微力ながら助力したいと考えております。

公益社団法人調布市医師会 会長 西田 伸一



食堂の開設サポート、市内の食堂同士のネットワーク化、市民や団体からのご寄付とりまとめなど、子ども食堂の活動は多くの面で社会福祉協議会の皆さんに支えられています。これからも活動の牽引役であって欲しいです。

調布市子ども食堂ネットワーク 細川 真彦



私ども視障協もほぼ同時期に発足しました。一口に50年といっても、時代の流れに立ち向かいながら皆さんと協力してやっと今日までたどりついたというのが本音です。今後とも、私たちが地域でいきいきと生活していくためのお手伝いをよろしくお願いします。

調布市視覚障害者福祉協会 道口 由美子



多くの市民のいろんな不安解決に向けた積極的な取り組みに感謝しています。高齢化社会での人生の安全・安心に向けての貴重なご支援を、今後ともよろしくお願い致します。

調布市自治会連合協議会 会長 有原 成夫



社協と事業団の違いは何ですか？良く問われます。事業団は施設運営を、社協は市民との連携やボランティア活動等そして福祉人材の養成に期待が集まります。共に市民から必要とされる存在であり手を携え頑張らしましょう。

社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 理事長 小林 一三



社会福祉法人がお互い連携して、地域のお役に立てるよう公益的な取り組みについて、社協が事務局として支えてくださる事にとても期待しております。困っておられる方々のために今後も努力を続けさせていただきます。

調布市社会福祉法人 地域公益活動連絡会 会長 小笠原 寿弘



当会では、主に女性部が窓口となり共同募金実施にあたっての事務作業のお手伝いや催事でのイベント機材借用で連携をしております。これからも地域福祉の向上のため地域を支えていただきますようお願い申し上げます。

調布市商工会 会長 柳澤 勇



調布市社会福祉協議会様は、調布の福祉を担う中核として大きな役割を果たしておられます。私共シルバー人材センターは、これからも貴法人の活動理念に賛同し、地域福祉の発展に向けより一層連携を深めてまいります。

公益社団法人調布市 シルバー人材センター 会長 永谷 誠



私は58歳の時に脳幹梗塞になり、それが因で社協を知り今日迄出入りさせて頂いております。今では此処に来れる事自体が幸せです。つくづく感ずる事は、社協こそ福祉の本丸だな、という事です。今後とも大発展を...

調布市身体障害者福祉協会 会長 江口 正和



50のメッセージ

25



「こころの健康支援センター」が開設され15年目に入りました。家に引きこもっていた当事者がワークに参加し、就労する人もいて、家族は希望を与えられました。関わられた皆様に感謝すると共に、今後も期待しています。

調布市精神障害者家族会
かささぎ会
会長 江頭 由香

26



調布・日赤は昭和38年12月に創立しました。昭和46年に社協助け合いバザーが開催され、7年後に第1回福祉まつりバザーが始まり現在に至っています。社協の皆様には大変お世話になっており、感謝を申しあげたいと思っております。

調布市赤十字奉仕団
委員長 田邊 美春

27



市社協には長年、手話通訳者の派遣、および手話講習会の運営等を通して、聴覚障がい者の日常生活向上に多大なるご尽力を賜り深く感謝申し上げます。今後とも、共に手を携えて、障がいの有無に関係なく安心して住める調布市を築いていきたいと存じます。

調布市聴覚障害者協会
会長 井村 茂樹

28



社協はこれまで手話通訳者の養成、派遣など、聴覚障害者の情報保障の基礎を築いてこられました。今後は高齢化、パンデミック、デジタル化時代における人的支援など更に複雑化する社会情勢に柔軟に対応できる障害者福祉を期待します。

調布市登録手話通訳者の会
会長 高木 真知子

29



私たちにとって、調布社協はハード・ソフト・人材など様々な場面において、なくてはならない存在です。これからも、お互いの組織の特徴を活かし合いながら、調布でしかできない障害福祉を実現していきましょう！

調布市福祉作業所等連絡会
代表 大澤 宏章

30



親の会設立の50数年前から、親の会バザーを「福祉まつり」に発展させ、親の会の作業所を引き取り「希望の家」として運営するなど、いつも近くで支えてくださった社協さん。今後も調布の福祉の要として輝き続けてください。

特定非営利活動法人
調布心身障害児・者親の会
会長 進藤 美左

31



地域福祉への活動・推進に感謝いたします。当団体も毎年、福祉まつりへ参加させていただいておりますが、今後も協力体制を継続していければと思います。

公益社団法人調布青年会議所
理事長 林 慎一郎

32



「ちょうふチャリティーウォーク」は楽しくウォーキングして、市民活動を応援する「えんがわファンド」に寄付するイベントです。このまちをもっと良くしたい。これからも調布社協と連携して、行動する市民を応援します。

ちょうふチャリティー
ウォーク実行委員会
南條 勉

33



調布市、貴協議会が運営していた福祉有償運送事業を引き継ぎNPOとして設立し、現在もご支援いただいております。今後もお互い協力し、市民の役に立つ意義深い市民活動を継続していければと思っています。

特定非営利活動法人
調布ハンディキャップ
事務局 中島 健二

34



保護司会では現在、社会福祉協議会の活動拠点である総合福祉センターの会議室をお借りし、月1回の理事会、年2回の定例研修を行っております。今後とも活動継続の為、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

調布分区保護司会
会長 宮内 弘

35



調布ゆうあい福祉公社が総合福祉センター内の一室で、昭和63年事業開始以来、あたたかい地域づくりという同じ目標を持つ団体として連携させていただいております。今後も、貴法人のますますのご発展を祈念いたします。

公益財団法人
調布ゆうあい福祉公社
理事長 花角 美智子

36



貴協議会の原点は、地域福祉の中心的役割を担うことにあると思います。法人化50周年にあたり、改めてその原点を大切に、一人ひとりに寄り添った事業展開を期待するとともに、今後の益々のご発展を祈念いたします。

社会福祉法人
東京かたばみ会
理事長 小田切 光男

37



クラブ設立以来30年間、貴協議会とは強い連携の下、沢山の奉仕活動を行ってまいりました。市内の困っている人のそばには必ず皆様がいる。地域共生社会の実現に向けて共に協力し前進してまいります。

東京調布むらさき
ロータリークラブ
会長 渡邊 智

38



地域に根差した活動を軸に、地域共生社会の実現に向けた貴会の長年にわたる活動に心から敬意を表します。コロナに負けず、共に活動していきましょう。

東京調布ライオンズクラブ
会長 松村 正澄



50のメッセージ

39



東京調布ロータリークラブは、社会奉仕団体として社協の活動に対して長きにわたり微力ながらの支援を行ってきました。これからも調布市の地域福祉の向上に対して中心的役割を担っていただけるよう期待しております。

東京調布ロータリークラブ
会長 鬼束 浩司

40



未来ある子どもたちや障がいのある方々と共に、垣根のない社会の実現に向けて、市内そしてスタジアムから、誰もが助け合い、仲間と支え合いながら地域福祉をより推進できるようにお互い協力していきましょう。

東京フットボールクラブ
株式会社 (FC 東京)
代表取締役社長 大金 直樹

41



弊社は、一人暮らし高齢者を対象とする貴会の「見守りあんしん訪問」事業を30年間続けています。これからも地域社会の健やかな暮らしに貢献できることを願いつつ、真心と人の和を大切に、本事業に携わってまいります。

東京ヤクルト販売株式会社
代表取締役社長 菊池 清隆

42



何もわからない私を野ヶ谷の郷に紹介してくれたのが社協です。市民活動がスムーズに運営されているのも、社協が地域の皆様と寄り添い、新型コロナウイルスの予防をしつつ、滞りない活動をされていて大変感謝しています。

野ヶ谷の郷運営委員会
副代表 小阪井 真樹子

43



私どもは、社会福祉協議会と連携し、3回目「フードドライブ」を今回はトリエ様と合同実施。また、「障害者施設手作り品販売会」もコロナ収束後再開。こうしたSDG'sへの取組みと定着化に向けた強力な牽引役を、社会福祉協議会に期待いたします。

株式会社パルコ調布店
店長 山本 仁也

44



フードバンク調布は2017年12月にCSWのサポートを受けて立ち上がり、生活困窮者への食糧支援は主にライフサポート窓口と連携しています。これからも地域のボランティア団体へのサポートをよりよくお願いいたします。

フードバンク調布
理事長 安保 久恵

45



長い間「こころの健康支援センター」で勉強させていただきありがとうございました。職員の皆様並びに地域の方々のご努力による多くの稔りに感謝し、共に生きる、健やかな社会のため、一層のご活躍を祈念いたします。

石山 淳一
(こころの健康支援センター
元嘱託医 精神科医師)

46



傾聴ボランティアを始めて6年になります。良い聴き手となっているか不安はありますが、一人ひとりの気持ちに寄り添い丁寧に傾聴することに心掛けています。こうした直接的な支援(ボランティア)ができることに感謝しています。

小俣 幸子
(友愛訪問、ふれあい福祉
相談 ボランティア)

47



思い起こせば40年程前、手話教室を始めたいと窓口に相談に伺った時のことを思い出します。よく調布の福祉は手厚く安心して住みやすいと聞きます。次世代を見据えた活動に期待します。

小塚 恵美子
(ふれあい給食 ボランティア)

48



ここあの一員として総合福祉センターで働くことを通し、私は「社協とは何か」を知りました。それは、職員の方々が、どんな時でも、誰に対しても、一人の人間として対等に向き合い敬う姿勢を失わないということです。

西牧 たかね
(子ども・若者総合支援事業「ここあ」
学習支援コーディネーター)

49



福祉推進委員を経て子どもの居場所「omiso(おみそ)」を立ち上げ、高齢者会食や小地域実行委員、総務委員と人との出会いがある場所です。真摯な対応、相談できる強い味方です。優しい世界と一緒に携わっていきたくて願います。

藤井 寿子
(おみそ Omiso、高齢者会食など
ボランティア)

50



平成14年私が高次脳機能障害者のつどい「調布ドリーム」の設立に関わった折、リハビリの場を提供頂いたのが調布社協でした。以後、高次脳機能障害者支援の市の拠点機関として、相談、地域支援、啓発活動に邁進され、今後も相互の協力を考えています。

渡邊 修
(東京慈恵会医科大学附属第三
病院 リハビリテーション科)

今回メッセージをいただいたみなさんのほか、多くの方々のご支援・ご協力をいただきながら地域福祉を推進していきます。ありがとうございます!



調布社協の事業紹介

～活動の拠点～

- 1** 調布市総合福祉センター
小島町2-47-1


- 2** 調布市希望の家
富士見町2-16-33


- 3** 調布市希望の家分場
入間町1-13-2


- 4** 希望の家深大寺
深大寺北町5-6-1

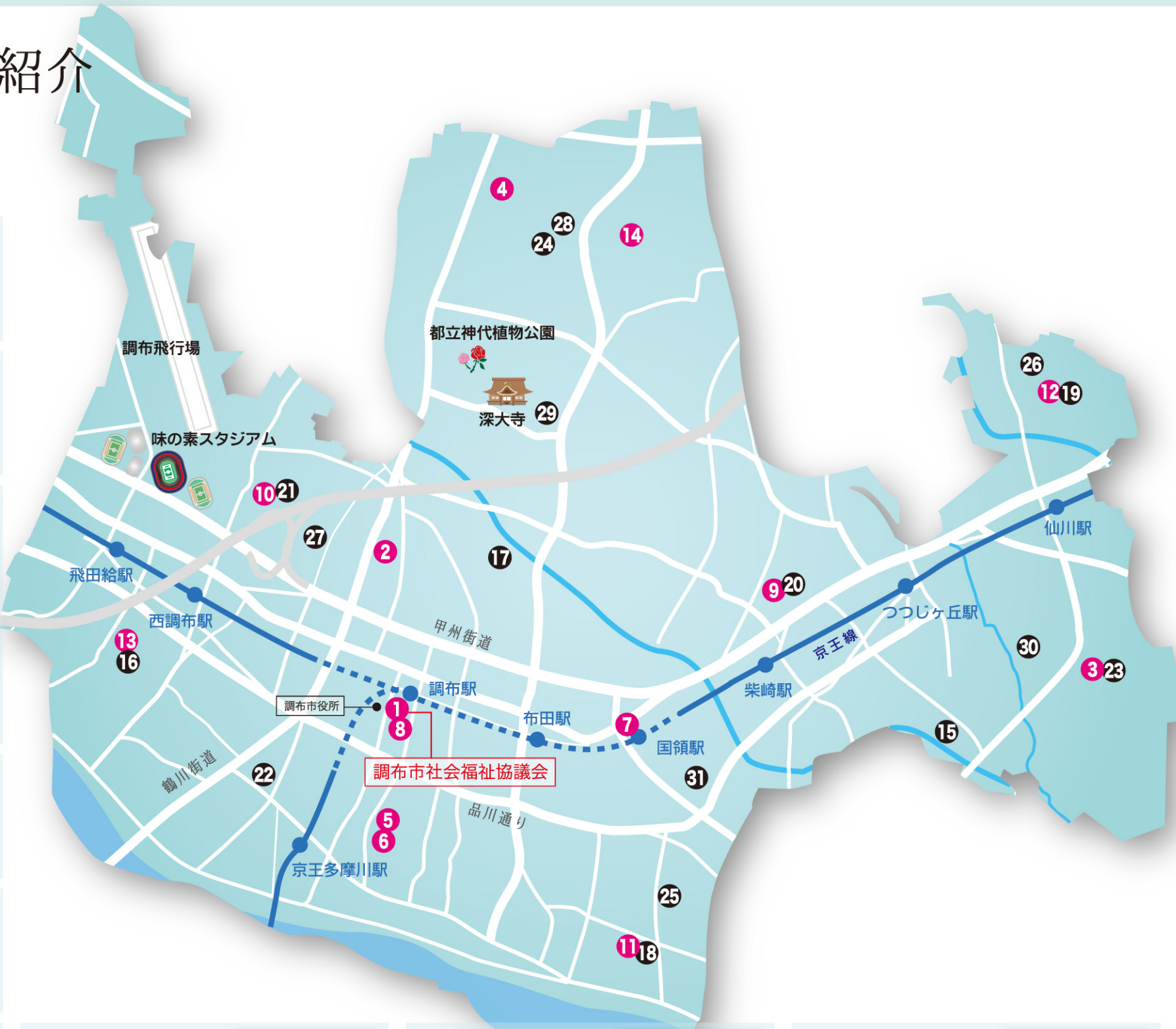

- 5** 調布市こころの健康支援センター
布田5-46-1


- 6** 調布市福祉人材育成センター
布田5-46-1


- 7** 市民活動支援センター
国領町2-5-15
コクティアー2階


- 8** 小島町コーナー
小島町2-47-1
調布市総合福祉センター内





- 9** 菊野台コーナー
菊野台1-38-1
菊野台地域福祉センター内


- 10** 富士見コーナー
富士見町4-15-6
富士見地域福祉センター内


- 11** 染地コーナー
染地3-3-1
染地地域福祉センター内





- 12** 緑ヶ丘コーナー
緑ヶ丘2-18-49
緑ヶ丘地域福祉センター内


- 13** 西部コーナー
上石原2-15-6
西部地域福祉センター内


- 14** 野ヶ谷の郷
深大寺東町6-27-3



- 15** 金子地域福祉センター  
- 16** 西部地域福祉センター  
- 17** 調布ヶ丘地域福祉センター  
- 18** 染地地域福祉センター  
- 19** 緑ヶ丘地域福祉センター  
- 20** 菊野台地域福祉センター  
- 21** 富士見地域福祉センター  
- 22** 下石原地域福祉センター  
- 23** 入間地域福祉センター  
- 24** 深大寺地域福祉センター  
- 25** 市立染地小学校 
- 26** 市立緑ヶ丘小学校 
- 27** 市立石原小学校 
- 28** 市立北ノ台小学校 
- 29** 市立深大寺小学校 
- 30** 市立若葉小学校 
- 31** 市立国領小学校 

-  高齢者会食
-  ふれあい給食
-  小地域交流事業

調布社協の事業紹介

～展開している事業～



● 通所介護・国基準通所型サービス「アイビー」



● 放課後等デイサービス「びっころ」

◆高齢者

- ほのぼの電話訪問
- 友愛訪問
- 見守りあんしん訪問
- 高齢者訪問理美容サービス
- 高齢者会食サービス
- ミニデイサービス
- ふれあい給食
- 通所介護・国基準通所型サービス「アイビー」
- 市基準通所型サービス「よつぼ」
- 知って活かそう介護予防
- 地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）
- あんしん未来支援事業



● 見守りあんしん訪問

◆障がい者

- 在宅心身障害者（児）緊急一時保護
- 手話通訳者派遣
- 同行援護事業
- 中途失聴・難聴者のための手話講習会
- 障害者地域活動支援センター「ドルチェ」
 - ・ デイサービス「クローバー」
 - ・ 作業体験デイサービス「若草」
 - ・ 指定相談支援事業
 - ・ 高次脳機能障害者支援促進事業 など
- 調布市希望の家、調布市希望の家分場
- 希望の家深大寺
- 調布市こころの健康支援センター
 - ・ 指定相談支援事業
 - ・ 自立訓練（生活訓練）事業
 - ・ 障害者就労支援事業「就労支援室ライズ」
 - ・ 発達障害者支援事業「ぼぼむ」 など



● 障害者地域活動支援センター「ドルチェ」作品展

◆子ども・若者

- 放課後等デイサービス「びっころ」
- 調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」

◆生計・資金の貸付

- 生活困窮者自立相談支援事業「調布ライフサポート」
- 総合支援資金の貸付
- 緊急小口資金の貸付
- 福祉資金の貸付
- 不動産担保型生活資金
- ひとり親家庭高等職業訓練促進資金
- 受験生チャレンジ支援貸付

◆地域活動・ボランティア

- ひだまりサロン事業
- 小地域交流事業
- 調布市地域福祉活動支援事業
- 地域福祉コーディネーター（CSW：コミュニティソーシャルワーカー）
- 調布市地域福祉活動計画
- 市民活動支援センター・各コーナー
- 福祉団体への助成

◆各種相談

- ふれあい福祉相談
- 電話相談
- 福祉相談
- その他専門相談

◆権利擁護

- 地域福祉権利擁護事業
- 福祉サービス利用援助事業

◆貸出し

- 福祉機器の貸出し
- イベント用機材の貸出し
- 教養娯楽室の利用
- 会議室等の利用
- 浴室の利用（高齢者・障がい者）

◆寄付・募金

- ちょビット協力金（調布社協会費）
- 自動販売機
- 募金箱
- 共同募金運動
- 歳末たすけあい運動
- その他寄付金・品

◆普及啓発・人材育成

- 広報活動（ふくしの窓・YouTube など）
- 調布市福祉まつり
- ボランティアまつり
- 調布市福祉大会
- ちょうふ地域福祉フォーラム
- 手話講習会
- 各種講座
- 調査活動
- 調布市福祉人材育成センター

◆他団体事務局事務

- ① さるすべりシニア調布（調布市老人クラブ連合会）
- ② 調布市障害者（児）団体連合会
- ③ 共同募金調布地区協力会
- ④ 調布市いきいきクラブ調理運営協議会
- ⑤ 調布市社会福祉法人地域公益活動連絡会



● 自動販売機



● 調布市福祉大会



● ひだまりサロン事業



● 調布市福祉まつり

数字で見る50年

★ 活動を支えていただいた資金

会費 **432,871,301** 円

寄付金 **429,432,701** 円

募金箱 **6,942,397** 円

※令和3年度より、会費の愛称が「ちょビット協力金」になりました。



自分たちの地域のためにと、多くの会費、寄付金、募金が寄せられました。これからも、調布社協が進める地域福祉活動の事業運営の財源として、大切に活用させていただきます。

★ ふくしの窓発行部数

20,926,506 部

発刊当初は、白黒2面の不定期発行でしたが、現在は8面フルカラーで、奇数月に全戸配布しています。今後も、市民のみなさんに福祉の情報をわかりやすくお届けしていきます。



★ ひだまりサロン参加者

307,113 人

ふれあいサロンとミニデイサービスを一体化して生まれた「ひだまりサロン」。今では、お茶やおしゃべりのほか、体操、園芸、子育てや介護者の支援など、約100か所のサロンが工夫を凝らして活動しています。



★ 相談件数

488,209 件

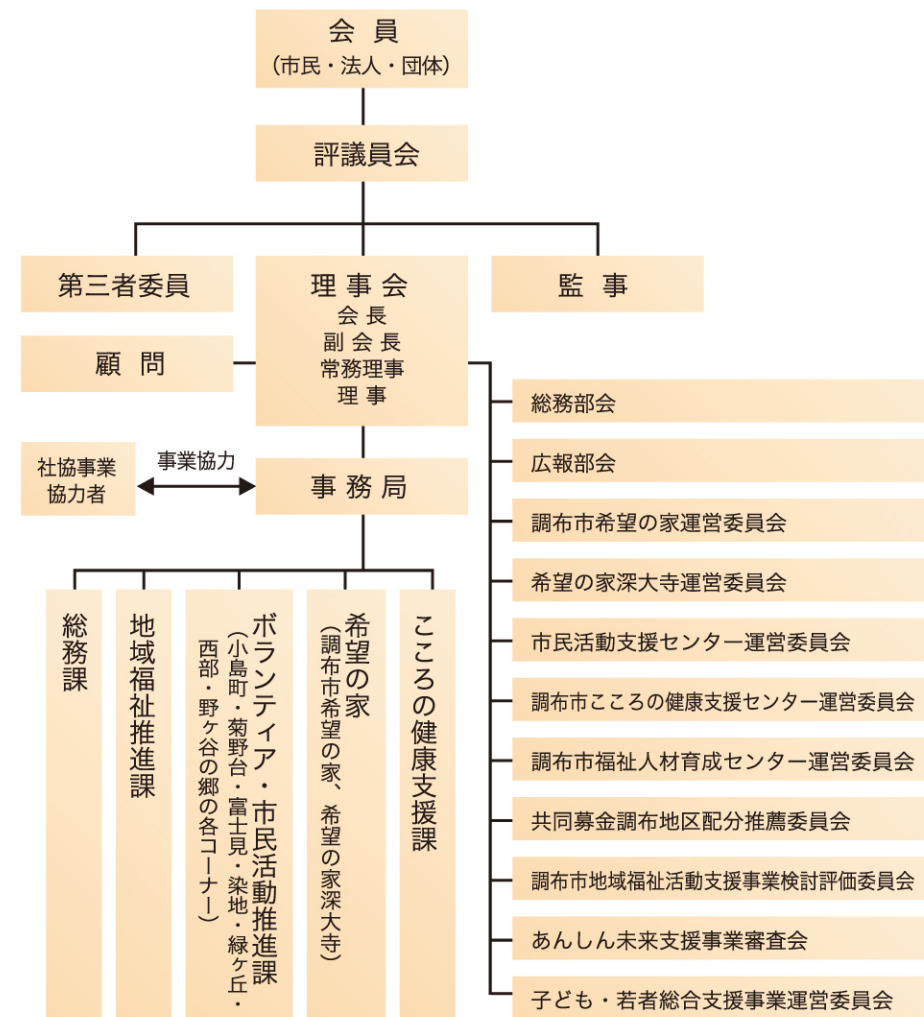
- ・心配ごと相談
- ・電話相談
- ・ふれあい福祉相談
- ・福祉相談
- ・ボランティア相談
- ・地域福祉権利擁護事業
- ・生活福祉資金
- ・受験生チャレンジ支援貸付事業
- ・こころの健康支援センター
- ・障害者地域活動支援センター「ドルチェ」
- ・地域福祉コーディネーター
- ・生活困窮者自立相談支援事業
- ・子ども・若者総合支援事業「ここあ」
- ・その他



法人化と同時に始まった「心配ごと相談」（平成29年度に終了）以降、市民のみなさんの困りごとを安心につなげるため、様々な相談を受けています。調布社協はこれからも、みなさんに寄り添っていきます。

※各項目の数字は、昭和46年度～令和2年度事業報告をもとに算出

組織図・評議員・役員



第25期 評議員

小泉 伸子	川原 實
高橋 勝彦	米田 桂子
田中 賢介	渋谷 利宏
金子 伊佐子	白倉 陸王
渡辺 洋子	日比生 信義
星野 良二	林 清子
出口 アユミ	斯波 信子
小林 弘一	隠田 勝
松井 久美子	川又 剛
加藤 功	長谷 公人
兼子 久	高橋 一明
小倉 智子	中村 宏
池田 美弥子	田邊 美春
清水 利夫	中川 恵之
井上 一郎	水谷 由紀
荒井 のり子	

第26期 役員

会長	関森 正義
副会長	小川 時雄
副会長	秋沢 淳雄
副会長	村上 佳子
常務理事	小西 健博
理事	田中 茂和
理事	中村 悦子
理事	和田 敏明
理事	嵐 裕治
理事	壽賀 一仁
理事	広田 茂雄
理事	増田 弘子
理事	矢幡 秀治
理事	野澤 薫
理事	橋本 ゆかり
監事	牛込 太一
監事	石井 義久

キャラクター紹介

調布社協キャラクター
ちょビット



市民活動支援センター
キャラクター
えんがわくん



調布市福祉まつり
キャラクター
サニーくん

